

学校評価総合実施手引書Ⅰ よくある質問（FAQ）

凡例（FAQにおける表記の定義等）

* 「手引書」は、「学校評価総合実施手引書Ⅰ」の略。

* FAQ中に記載した頁数は、手引書の掲載頁。

Q p.20～21 の評価項目は、どのように見たらよいですか？

A 大項目は評価項目の基本的な区分となるタイトルのようなもので、大項目には中項目で示している内容が含まれます。さらに、中項目の内容について、どのような視点でチェック・評価を行うのかを「具体的な評価のポイント」として記載しています。

Q 重点目標は、どのように設定したらよいですか？

A p.19 の図のように、重点目標は各校の教育目標に照らして設定することが大切です。どんな人材を育てたいのか等の観点から、各校の方針・実情に合わせて設定します。

なお、手引書では、それぞれの学校の自主性を重んじる立場から、例示として具体的な数値や内容の記載を避けていますが、教育目標達成のための重点目標として「〇〇考查合格率 95%を旨ず」、「〇〇実技試験合格率 100%」などの定量的な目標を設定することもできます。

Q 手引書に掲載されている評価項目は文部科学省のガイドラインに準拠しているようですが、調理師養成施設としての評価になりますか？

A P.20～21 の評価項目は文部科学省のガイドラインに準拠し、かつ、中項目や評価のポイントとして協会が 2014 年に作成した自己点検・自己評価フォーマットの項目内容を盛り込んでおり、調理師養成施設として評価できるように作成しています(別表参照)。

Q P.16 の自己評価体制についてのモデルは、どちらも大規模校を対象としたものと思われませんが、小規模校はどのように活用したらよいのでしょうか？

A p.16 では例を示したものであり、教職員の少ない学校であれば、学校長を実務リーダーとして、各担当責任者に加え教職員全員が直接評価に参画するなど、規模・体制にあった組織を編成し、効率的に実施することで何ら問題ありません。

Q 評価項目の設定は、どのくらいの項目数がよいでしょうか？すべての項目を評価の対象としてもよいでしょうか？

A 各学校の実情に応じて評価項目を設定してください。自校の重点目標に合わせて、手引書の評価項目からピックアップして評価項目を設定することが大切です。もちろん、すべての項目を評価の対象としても問題ありません。